



立志 栗中だより

学校だより
足立区立栗島中学校
校長 豊崎 努
令和6年11月12日
<http://www.adachi.ed.jp/adkuri/>

『型 (かた)』

校長 豊崎 努

「型があるから型破りができる。型がなければただの形無し」という言葉を聞いたことはないでしょうか。私には、2012年(平成24年)に亡くなった歌舞伎役者、十八代目中村勘三郎さんの言葉のように記憶があるのですが、改めて調べてみました。

実はこの言葉は、昔のラジオ番組「子ども電話相談室」で回答者の無着成恭(むちゃくせいきょう)さんが言ったという記載がありました(その他にも諸説あるようですが)。その言葉に勘三郎さんが大きな感銘を受け、座右の銘にしたのだそうです。

中村勘三郎さんといえば、歌舞伎の世界では古典的な作品から新歌舞伎など、幅広いジャンルに挑戦してきたことで有名です。さらに、現代劇の作家や演出家と組んで、古典作品に新しい解釈を取り入れたり、新作歌舞伎を上演したり、歌舞伎座や演舞場を飛び出し、渋谷のシアターコクーンで「コクーン歌舞伎」を上演するなど、正に歌舞伎の世界におけるイノベーター(革新者)だったわけです。そしてそのような勘三郎さんを『「型破り」な歌舞伎役者』と呼ぶ人もいました。そんな中、ある新聞記者が勘三郎さんに「勘三郎さんの演技は型破りですね」とインタビューします。それに対して勘三郎さんは、

「何を言っているんだい。型破りっていうのは型があるから型破りっていうんだ。」

型がなければ単なる形無しなんだよ(本当はもっとべらんめえ調だったそうですが)と答えたそうです。(これを私は覚えていたようです)

歌舞伎の家に生まれ、幼い頃から歌舞伎の世界で育った勘三郎さんは、当たり前のように歌舞伎の「型」をしっかり身につけています。だからこそ、歌舞伎の「型」のどこをどう破って(発展・進化)いくなかが見えていたのでしょう。だからこそ彼の行った「型破り」は歌舞伎の発展につながり、彼の評価につながったはず。もし彼が「型」を知ることなく「型」を破っていたら、それはただの「形無し」つまり傍若無人な振る舞いとして、後の評価にはつながらなかったのだらうと思います。

さて、栗島中学校では11月2日(土)に学習発表会が、9日(土)に1、2年生の立志発表会が終わりました。栗島中学校の「立志」はテーマ設定、調べ学習、まとめ、発表という一つの型があります。型があり、その型が分かっているから、その中でそれぞれが安心して自由な工夫をすることができたのでしょう。そして3年生は上手に型を破り、新しい型を作りました。その結果が、どの学年もその学年らしい、グループらしい発表につながりました。こうして今年作られた型は、また来年につながっていくはず。また来年につながっていくはずです。

栗島中学校には、立志に限らず、挨拶や服装などにも栗島中学校の型があります。そして、その型をみんなが大事にしているから、「伝統」という言葉を使わなくても栗島中学校の良さが引き継がれているし、だれもがお互いを認めあえる温かい雰囲気が作られているのだらうと思います。

人生、人として生きる、という視点でも、中学生はまだまだいろいろな型を知っていく時です。その上で、その型を破れるだけの人間力をつける時です。そして、人としての型を伝え、力をつけさせていくのは大人の責任なのだ、という思いを新たに文化の秋です。

10月6日(日) 避難所運営訓練、MOA 美術館表彰式

10月11日(金) ゆめはなプロジェクト

10月20日(日) 中央地区スポーツ大会

コロナ禍でできなかった地域の皆さんとの活動が今年度は少しずつ復活しています。生徒会やボランティア部が積極的に参加し、地域に貢献しています。



そして、たくさんの「ありがとう」の言葉をいただいております。誰かのために一生懸命になれる、ということは素敵なことです。栗島中学校の魅力の一つです。

10月2日(水)~4日(金) 2学年職場体験

2年生は3日間にわたり、職場体験を行いました。夏休み前から事前学習を進め、事前の電話連絡や訪問等、時間をかけて準備をしました。

前日から緊張の面持ちが見られましたが、3日間は一人一人にとって貴重な経験となったようです。社会の中では挨拶や礼儀が今以上に大切であることを実感し、これからの自分の進路や目標を考えるきっかけにもなりました。中には、働くことは楽しいことばかりではない、と働くことの厳しさを知った生徒もいました。この経験がこれからの進路選択に必ずや活かせることでしょう。

終了後、丁寧に連絡をいただいた事業所もありました。2年生の頑張りを褒めていただき、大変嬉しく思います。お忙しい中にも関わらず、栗島中学校2年生のために、快く職場体験を引き受けてくださった事業所の皆様、本当にありがとうございました。



10月11日(金) 前期終業式、10月15日(火) 後期始業式・認証式

令和6年度も早いもので折り返し地点です。終業式は振り返りの日です。学習面はもちろん、生活面も振り返る時なのです。他人と比べる必要はありません。4月のスタート時の自分と比べてみてください。できなかったことができるようになっていたら、それはあなた自身の努力の成果です。頑張った自分を褒めてあげてください。逆に、4月にできていたことができなくなってしまっていたら、それは頑張る気持ちが薄れてしまっているからでしょう。もう一度後期に向けて、頑張る気持ちを立て直してください。

始業式では、立志発表会に向けて、「他人の意見を聞き、刺激を受け合い、互いに意見をぶつけ合うことで、より良いものを築き上げよう」という話をしました。また「受験は団体戦、3年生全員が進路を決めるまで、学校全体で雰囲気づくりに努めよう」というメッセージも送りました。前期から後期になることで、生徒会や委員会活動の中心が3年生から2年生に移ります。3年生が安心して受験に集中できるように、1・2年生はしっかりと3年生のやってきたことを受け継ぎ、支えてほしいです。そして、さらにより良い栗島中学校を築いていくよう、意見を出し合い、創意工夫をしながら、それぞれの役割を果たしてくれることを期待します。



10月18日(金) 5組校外学習

5組は校外学習で上野動物園、国立科学博物館に行ってきました。今回の校外学習は班行動がメイン、班長を中心に協力して楽しく学習することができました。特に、国立科学博物館は初めて訪れる生徒が多く、新しく目にするものに大きな感動があったようです。雨が心配されましたが、予定通りの行程をこなすことができました。

最後の帰宅報告までしっかり終え、さらに絆が深まりました。

